



札幌医科大学附属図書館情報誌

SAILING

Sapporo medical university Library's Information Navigator

デジタル撮影機器貸出します!

～ デジカメ・デジタルビデオ・DVD ビデオ～

CONTENTS

連載 図書館の上手な使い方 (第13回)	
デジタルビデオカメラの使い方	85
札幌医科大学附属図書館の歩み (第4回)	
～ 当時の写真で振り返って～	88
ぶっくぼすと	
文献検索について思うこと	92
開館時間変更および休館日のお知らせ	93
学部学生及び大学院生に対する冬季休業に伴う	
特別(長期)貸出の実施について	93
寄贈資料のお知らせ	94
図書館日誌	94



デジタルビデオカメラの使い方

1. 当館のデジタルビデオカメラ

SAILING 9月号ではデジタルカメラのご紹介をいたしました。今月号では、当館にあるデジタルビデオカメラについてご紹介いたします。

当館には2台のデジタルビデオカメラがあります。

メーカー	機種
1 SONY	Handycam DCR-TRV10 (1999年製)
2 SONY	Handycam DCR-HC40 (2004年製)

詳しい使い方は、もちろん説明書を見るのが一番です。仕様の詳細につきましてはSONYのホームページをご覧ください。撮影・編集ガイドなどハンディカムについてのいろいろな情報が得られます。

URL:<http://www.sony.jp/products/Consumer/handycam/index.html>

ここでは、新しい機種について簡単に使い方を紹介させていただきます。

1. 動画を撮る

ビデオですから基本は『動画を撮る』ということで次の手順で撮影します。

(1) レンズカバーと液晶パネルを開く

こんなことは、あたりまえかもしれませんが、液晶画面で画像を見る現在のビデオカメラではレンズキャップを開かなければ液晶画面は真っ暗の状態になってしまいます。

ワンポイント: 初心者にはシンプルボタンがおすすめです。テープを使用した撮影であれば、カメラの設定がオートに固定されます。

(2) 電源スイッチを切り換える。

緑のボタンを押しながら電源スイッチを『入』に切り換え、テープかメモリースティックかを選択します。

(3) 録画する。

録画スタート・ストップボタンで録画開始と停止を操作します。

撮影中の液晶画面にはいろいろなデータが表示されます。

バッテリー残量と連続撮影時間の目安、録画中表示、テープ残量などを確認しながら撮影できるので便利です。テープ録画とメモリースティック録画では多少違いがありますが、基本的なことは一緒です。

2. 静止画を撮る

最近のビデオは優れものでデジカメと同様、静止画を撮ることができます。

(1) レンズカバーと液晶パネルを開く

これは動画を撮る時と同じです。

(2) 電源スイッチを切り換える。

これも動画を撮る時と同じですが、今度は『メモリー』を選択してください。

(3) 『フォトボタン』を軽く押す。

被写体の中央部にピントと明るさが合うと“ピピッ”と鳴ります。まだこの時は撮影されていません。

(4) 『フォトボタン』を強く押す。

“カシャッ”というシャッター音がして液晶画面の専用表示が消えると静止画の記録が完了します。

ワンポイント: 初心者にはシンプルボタンがおすすめです。カメラの設定がオートに固定され、基本的な操作のみ行えるようになります。

3. その他の機能(撮影)

長時間録画する

録画モードの設定を『LP』にすると標準モードの1.5倍録画できます。

ズームする

W/Tのボタン操作で簡単に切り換えることができます。

対面撮影する

液晶画面を相手に向けると撮影される側と撮影者の両方で画面の確認ができます。自分自身を撮影する時も便利です。

暗い場所で撮影する

NightShot Plus

暗いままで被写体を撮影する

Super NightShot Plus

NightShot Plusよりさらに高感度で撮影する。最大16倍の感度。

Color Slow Shutter

薄暗い場所を明るくカラーで撮影する。

演出効果を加える

フェーダー

場面と場面の間にはホワイトフェーダー・ブラックフェーダー・モザイクフェーダーなどの効果を入れながらつなぎ撮りをする。

デジタルエフェクト

印象的な場面にしたい時などに使用する演出。

スチル：あらかじめ取り込んだ静止画に、動画を重ねて撮影する。

フラッシュ：コマ送り撮影。

ルミキー：あらかじめ取り込んだ静止画（白い紙に書いたタイトル文字の背景など）に動画をはめ込んで撮影する。

トレイル：被写体が動く残像が、尾を引くように撮影する。

スローシャッター：シャッタースピードを遅くする。暗いところで撮影

しやすい。

オールドムービー：画面を横長、画像をセピア、シャッタースピードを遅くして、昔の映画のように撮影する。

テープの動画に静止画を重ねて撮影する

メモリーミックス

メモリースティックに記録してある静止画を、本機でテープに撮影している動画に重ねることが出来ます。（撮影後のテープ画像には重ねられません。）

メモリアルミキー：静止画の明るい部分を抜いて、画像に重ねて撮影する。

カメラクロマキー：背景などの静止画に動きのある被写体を重ねる。

メモリークロマキー：イラストや枠などの静止画を使い、静止画の一部のみを抜いて、画像に重ねて撮影する。

4. テープの動画を見る

(1)液晶パネルを開ける。

(2)電源スイッチを切り換える。

緑のボタンを押しながら電源スイッチを『見る・編集』にする。

(3)液晶画面で『巻戻し』をタッチして、見たい位置まで巻き戻す。

(4)液晶画面で『再生』をタッチして、再生する。

5. メモリースティックの画像を見る

(1)液晶パネルを開ける。

(2)電源スイッチを切り換える。

緑のボタンを押しながら電源スイッチを『見る・編集』にする。

(3)液晶画面で『再生』をタッチして、再生する。

(4) 『 - 』、 『 + 』表示をタッチして、画像を選ぶ。

6. メモリースティックでできるいろいろな再生

動画を分割して場面を探す

録画した動画を最大 60 分割して、見たい場面から再生できます。録画時間により分割数は変わります。

動画も含めた画像を 6 枚ずつ一覧表示する（インデックス表示）

7. 再生の便利な機能

テープの動画やメモリースティックの静止画の中で画面で確認しづらい小さな被写体を拡大表示できます。また、撮影した日付や保存先のフォルダ名を表示できます。

8. テレビにつないで見る

今までは、ビデオ本体で出来る機能について紹介してきましたが、テレビに接続して大きな画面で画像を見ることも出来ます。

撮った画像をみんなで見るのも楽しいですね。

9. 本機で使用するテープとメモリースティック

- ・ミニ DV カセット（カセットメモリー付）
- ・メモリースティック デュオ(本機専用)

(注)標準のメモリースティックは、ご使用になれませんのでご注意ください。

10. まとめ

今回は、図書館で用意してある“SONY ハンディカム(DCR-H40)”の使い方を簡単に紹介させていただきましたが、まずは、何より実際に使ってみるのが一番なので、図書館で貸出

しを受けて撮影してみることをお勧めいたします。

貸出し手続きは、図書館 2 階カウンターで行っております。詳しい手続きの方法や貸出し期間につきましては、カウンターにお尋ねください。

ひとつお願いは、大学の備品であることをお忘れなく、取り扱いには十分にご注意ください。

これからの時期、ビデオが活躍する場面はたくさんあるはずですよ。楽しい思い出を残すためにお役立てください。

もちろん、勉強や研究などにも是非ご利用ください。



(図書管理係 武田 理香子)

札幌医科大学附属図書館の歩み（第4回） ～当時の写真で振り返って～

平成11年6月に附属図書館（以下、当館という）がリニューアルオープンしました。その間、当館は旧図書館の解体作業から新棟完成までの約2年間、図書館を一時移転して現在に至っています。そこで、「SAILING」ではこの場所に戻ってきて満5周年を迎えるにあたり、現存する写真をもとに当時を振り返り、現図書館の利便性や快適性を改めて認識してもらおうとこの企画をスタートさせることにいたしました。なお、掲載写真については移転に伴う引越し作業中に撮影したものであり、その時の殺伐とした様子も感じていただければ、と思っております。今回は、当時を振り返るシリーズ4回目となります。

当館の歩み

上記で述べたように、当館の場所は現在に至るまで5回変わっています。詳しくは一時期（昭和28～31年）衛生学教室および病理学標本室を間借りしていたことがありました。その後、順次下記の図書館に生まれ変わっていきました。これから話を進めていく都合上、この3つの建物の名称を旧図書館（昭和31年～平成8年）仮図書館（平成8～11年）現図書館（平成11年～現在）とさせていただきます。

これまで3回に渡り連載してきましたが、内容等については次のとおりです。

第1回（2004年1月号）：旧図書館の外観の様子と館内配置等の紹介

第2回（2004年2月号）：出入口・玄関ホール・カウンターホールの旧図書館と現図書館の比較紹介

第3回（2004年6月号）：閲覧席・セミナー室の旧図書館と現図書館の比較紹介

さて、第4回目は図書館の心臓部である「情報検索」に関する話題です。これにまつわる写真を使って、旧図書館と現図書館の比較をしていきましょう。これまでの3回は施設の比較でしたが、今回はサービス提供ツールの変遷等に重点を置き、少し違った視点から紹介していこうと思います。

情報検索

学生や研究者は、必要な文献を入手するために様々なツールを使って、その情報（論題、著者、収録誌、ページ等）に辿り着きます。図書館は、そのお手伝いをするために、これまで幾つかのツールを整備してきました。今回は、本学で最も利用頻度の高かった「MEDLINE」と「医学中央雑誌」の利用および提供方法について振り返ってみようと思います。なお、「MEDLINE」と「医学中央雑誌」について、聞いたことがない学生の方のために簡単に紹介しておきましょう。

【MEDLINE】

MEDLINE は、米国国立医学図書館(National Library of Medicine)。以下、NLM という)が作成している生物・医学文献データベースで、1966年以降、約1,100万件以上の文献を収録しています。なお、次ページで登場する Index Medicus は、MEDLINE のプリント版であり、図書館に保管されています。

【医学中央雑誌】

医学中央雑誌刊行会が1903年から発行している日本の医学文献情報誌で、約2,400誌を収録しています。附属図書館ホームページで提供している「MEDOC-J」は、このデータを使い独自に開発したデータベースです。

表1：提供形態の変遷

	旧図書館	仮図書館	現図書館	備考
MEDLINE	プリント版	プリント版	プリント版	旧図書館時代は、公衆回線を使った図書館員による有料代行検索サービスを行っていました。
	CD-ROM版 (スタンドアロン型)	CD-ROM版 (スタンドアロン型)	ネットワーク版 (Ovid、PubMed)	
医学中央雑誌	プリント版	プリント版	プリント版	
		CD-ROM版 (スタンドアロン型)	ネットワーク版 (MEDOC-J)	

註1：現図書館欄には、現行で運用している形態方法を記載

註2：Ovidとは、米国Ovid Technology社のこと。この会社では、様々な学術データベースを提供しており、MEDLINEもその中のひとつ。

註3：PubMedとは、NLMがインターネット上に無料で公開しているMEDLINEのこと。

上記検索ツールの提供形態が紙媒体からCD-ROM版やネットワーク版になってからはプリント版を使って検索をされている利用者は少なくなりました。またパソコンを使って検索できるようになってからは、短時間のうちに多くの文献情報を無料で入手できるようになりました。

今から約10年前の旧図書館時代は、公衆回線を使って文献検索を図書館員が代行して行っていました。しかし、この方法は検索時間や検索結果の件数等により課金されていく仕組みでしたので、図書館員も利用者も時間との闘いでした。

MEDLINEと医学中央雑誌がパソコンによる検索へ移行した当初、CD-ROMチェンジャーを置き、その中に年代別のCDを挿入して検索しており、今のようにネットワークがなかった時代でしたので、パソコン一台だけで検索していました。公衆回線の時代と比べ、検索時間によって課金される心配が全くなかった反面、利用の予約が殺到し、いつでも、自由に利用できる環境ではありませんでした。現在の図書館しか知らない方にとっては、おそらく想像できないでしょうね。とりあえず、こんな時代もあったのです。



「写真1：情報検索コーナー（旧図書館）」

旧図書館の情報検索コーナーは、MEDLINE のプリント版である Index Medicus の分厚い冊子に囲まれていました。写真1の後方の棚にぎっしり詰まっている冊子が Index Medicus です。ちなみに、一冊が百科事典一冊分に相当すると考えてください。また、医学中央雑誌のプリント版もこの写真には写っていませんが、右側方向にありました。実物をご覧になりたい方は、カウンターにお申し出ください。



「写真2：Index Medicus（左）と医学中央雑誌（右）」

一方、現図書館の情報検索コーナーは、Index Medicus や医学中央雑誌のプリント版が電子化され、全てパソコンから情報を取り出すことができます。冊子を使った検索と比べれば、短時間のうちに多くの情報を入手できるようになりました。写真3は、現図書館3階の様子が写っていますが、ご存知のとおり学内ネットワークにつながっているパソコンから自由に検索できる環境になっています。



「写真3：情報検索コーナー（現図書館）」

なお、パソコンを使った情報検索は、利用者の身分によって、ご利用になれない検索ツールがあり、全ての利用者がいつでも、自由に使えるわけではありません。利用要項につきましては、当館ホームページもしくは、当館カウンターまでお問い合わせください。

今回は、検索ツールが紙媒体から電子媒体へと姿を変えていった様子をご紹介してきました。利用者は、検索ツールによって得られた文献情報を使ってペーパーを入手します。そこで、シリーズ5回目は「資料」をテーマにお伝えしたいと考えています。さて、次回はどんな写真が登場するのか。皆様、どうぞご期待ください。それでは、今回はこの辺で失礼いたします。

（図書管理係 池崎 康）

文献検索について思うこと

最近、研究者とインタビューしながら検索語を探し、検索式を作成したのち検索を行うということをしなくなりましたので、今の図書館利用者がどのような検索をされているのか良くわからなくなっていますが、検索について日頃感じていることを書かせていただきたいと思います。

検索する時に必要なことは、分母になるキーワードを選択する時には、あたりまえですが正しいキーワードを選ぶことが重要です。分母という言葉を使いましたが、簡単に言いますと掛け合わせるための最初の検索語の件数(集合体)のことです。

掛け合わせるための基の集合体が正しくなければどんなことをしてもいい検索は出来ませんし、必要とする文献を得ることは出来ません。

フリーワードで探してもいいのですが、それぞれのデータベースの特徴を捉えて、それぞれのデータベースが作成しているキーワード(統制語)を使って検索することもお勧めいたします。

昔と違って今は検索しながら考えていてもお金がかかるわけではないので、時間がないといいつつも、多少時間をかけて細かく探っていくほうが、結果的には短い時間で良い検索結果を得ることが出来ると思います。

私の独断で、手っ取り早く検索する方法を伝授？いたしましょう。と言ってもそんなに変わった検索方法ではないと思いますが。

まず始めに自分が探したいと思っている検索語を入れて検索してみます。

使える文献が出てきた場合

ここで安心しないで、使える文献に付与されているキーワードをチェックして、再度必要と思われるキーワードで検索しなおします。これである程度の文献を拾うことが出来るのではないかと思います。

全然文献が出てこない場合にはもう一度検索語を考え直します。例外はありますが、基本的に0件という検索結果はありえないと考えたほうが正しいと思います。

この場合は、思いつくいくつかのキーワードで試してみます。タイトルに必要と思われる文献が出てきましたらしめたもので、上記「 」の検索方法を使って検索し直します。

たくさん文献が出てきた場合にはもう一つ検索語を掛け合わせます。

通常、掛け合わせる検索語は3個くらいでしょうか、それ以上になると検索結果が0件になる確率がものすごく高くなりますので、検索語の選択には注意が必要です。

簡単に文献を絞り込む方法

- 1 年代で絞る
- 2 タイトル中に出てくる語に絞る
- 3 LIMIT 機能を使って限定する

以上手っ取り早い検索の紹介でした。参考に見てみてください。

(利用サービス係 福井 堅一)

開館時間変更及び休館日のお知らせ

冬季休業のため開館時間に変更となりますのでお知らせいたします。また、次のとおり休館（通常開館及び特別開館）とさせていただきます。ID カードによる特別開館についてもご利用になれませんので予めご了承ください。

	期 間	開館時間	特別開館時間
平 日	12月13日(月)～1月7日(金)	9時00分～17時00分	17時15分～ 24時00分
	1月11日(火)～	9時00分～20時00分	20時15分～ 24時00分
土 日	変更はありません。	/	9時00分～ 24時00分
仕事納め	12月28日(金)	9時00分～17時00分	/
休 館 日	12月29日(土)～1月3日(月)	年末年始により休館になります。	

なお、12月28日(金)につきましては

- (1) 29日からの休館準備のため特別開館はお休みさせていただきます。
- (2) 自動貸出装置による資料の貸し出しは13:00までとさせていただきます。
13:00以降の貸し出しにつきましてはカウンターにて対応いたします。

講座購入による登録済みの図書・学術雑誌につきましては、年内にお引取りくださいますようお願いいたします。

また未返却資料をお持ちの方は年内に返却くださいますようお願いいたします。

利用者の皆様にはご迷惑をおかけいたしますがよろしくお願いいたします。

学部学生及び大学院生に対する冬季休業に伴う特別（長期）貸出 の実施について

冬季休業に伴う学部学生及び大学院生への特別(長期)貸出を来る12月7日(火)から実施します。対象資料は一般図書を5冊まで特別貸出を受けることができます。ただし、製本雑誌は通常貸出(3日間)となります。

なお、本特別貸出によって貸出を受けた資料の返却期限は1月11日(火)です。

寄贈資料のお知らせ

下記の資料をご寄贈いただきました。ありがとうございました。

【財団法人札幌医科大学学術振興会 様】

- ・ Medical imaging in gastroenterology and hepatology
(Falk symposium:124)

(4階開架 WI141 || Me14)

他 61 冊

図書館日誌

【平成16年10月】

- 1日(金) ・北海道大学附属図書館講演会
於：北海道大学 中山主任司書、今野係長、小林主任、武田主任、池崎主任出席
- 10日(日) ・停電に伴う休館
- 14日(木) ・北海道図書館大会
於：札幌ホテルライフオート 大前係長出席
- 19日(火) ・認定看護管理者(セカンドレベル)研修会
図書館ガイダンス(看護部)(13名)
- 20日(水) ・北海道地区大学図書館職員研究集会第4回企画委員会
於：北海道大学 小林主任出席
- 22日(金) ・北海道大学附属図書館情報管理課 加藤彰氏他3名
視察来館
- 25日(月) ・平成16年度第2回図書館運営委員会

札幌医学雑誌の投稿受付について

投稿に際しましては、「札幌医学雑誌投稿規定」を必ずお読みください。「札幌医学雑誌投稿規定」につきましては2002年より改正になりましたので、札幌医学雑誌最新号の投稿規定をご参照ください(札幌医学雑誌 第71巻第5号 平成14年10月より適用)。

なお、「原著論文」、「総説論文」を投稿される方は「札幌医学雑誌への論文投稿にあたって」、また「学位申請論文」、「学位集成論文」を投稿される方は、それぞれ『「学位申請論文」投稿の手引き』、『「学位修正論文」投稿の手引き』がありますので事前にお問い合わせください。

問合せ先：利用サービス係長 大前好子
(内線 2415 > E-mail to: ohmae@sapmed.ac.jp)

附属図書館へのお問合せ先

お問い合わせ内容	内線	E-mail	担当係
図書館利用に関すること	2425	libserv@sapmed.ac.jp	利用サービス係
雑誌に関すること	2426 2416	serial@sapmed.ac.jp	図書管理係
図書に関すること	2426	book@sapmed.ac.jp	
学外利用者の方はこちらから 学内利用者の方はこちらから	2417 2418	illr@sapmed.ac.jp illo@sapmed.ac.jp	相互利用係
図書館システムに関すること	2422		図書館システム係
札幌医学雑誌の投稿に関すること	2415	ohmae@sapmed.ac.jp	利用サービス係
図書館の庶務に関すること	2414		総務係
図書館へのご意見ご希望に関する こと	2413	nakayama@sapmed.ac.jp	主任司書

～ SAILING 札幌医科大学附属図書館情報誌 17巻11号 ～

編集・発行 札幌医科大学附属図書館

〒060-8556 札幌市中央区南1条西17丁目

(TEL) 011-611-2111 (代表)

(FAX) 011-641-9646 (図書館直通)

発行日 平成16年11月1日